



人材育成事業報告書

- ・ 若手職員研修
- ・ 中堅職員研修

日本財団助成事業
ケアポート連携による高齢者ケアの推進
(スリポートゆめ・ひと・つながり塾)

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

目 次

はじめに

スリーポート活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

ケアポート庄川法人紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

ケアポートよしだ法人紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

ケアポートみまき法人紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

【若手職員研修報告書】

第1回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第2回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

第3回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

【中堅職員研修報告】

第1回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第2回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

第3回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

第4回研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

スリーポート活動の概要

<スリーポート連携事業始まりの経緯>

◆2014年度 事業評価

日本財団の地域福祉創造プロジェクトケアポート事業としてケアポート庄川（富山県）、ケアポートよしだ（島根県）、ケアポートみまき（長野県）が建設され20年が経過した、2014年度に公共価値創造研究所により、各ケアポートの事業評価が実施されました。

◆2015.3.19 日本財団ケアポートフォーラムの開催

公共価値創造研究所の事業評価の結果を踏まえ、これからの超高齢化社会に向けた施設の役割、並びに地域連携のあり方等について3施設の事例を紹介させていただきました。

◆2016.6.1 日本財団助成事業

ケアポートの連携による高齢者ケアの推進（スリポートゆめ・ひと・つながり塾）事業評価の結果を受け、各ケアポートの強みや足りない所を検証後、それぞれの地域性や強みを活かして各ケアポートが所管となり連携事業をスタートさせました。

<2016～2018までの主な事業活動内容>

○ボランティア分科会（ケアポート庄川）

- ・ボランティアへのアンケートを実施し意識調査を実施
- ・ボランティア交流会の実施
- ・トレーニング機器の整備

○地域生活支援分科会（ケアポートよしだ）

- ・ゆめ・ひと・つながり手帳の作成
- ・人材育成事業として、デンマーク視察など先駆的取り組みをしている施設への視察研修

○健康・リハビリ分科会（ケアポートみまき）

- ・総合支援事業に向け環境整備（マイクロバス、トレーニング機器等の備品）
- ・「リハビリ」「食」「総合支援事業」に関するリーフレット、DVDの作成
- ・施設整備（床の張替え等）
- ・若手、中堅職員への人材育成事業として各ケアポートへの視察研修、ボランティア活動への参加、中堅職員研修報告会の開催

ケアポートの事業所紹介

社会福祉法人 庄川福祉会 ケアポート庄川



ケアポート庄川は、高齢化社会に対応し、地域老人の保健、医療、福祉の総合施設として21世紀を展望する高齢者のモデル施設として平成4年に開設しました。

ケアポート庄川という名称は 日本船舶振興会会長（日本財団） 笹川良一氏が「高齢者が 安心して 生活できるように」と願いを込め命名されました。



日本財団の高齢者福祉モデル施設第1号です。竣工して27年目を迎えました。北欧デザインで設計されており正面玄関入口が吹き抜けになっており「明るさ」「解放感」を象徴する多目的空間が広がっています。

居室は全室個室となっています。



当施設の大きな特徴として挙げられるのは、ボランティアとの協働です。もともとボランティア意識の高い地域に、日野原先生のご指導や考え方が浸透し、多くの支援ボランティアの皆さんを中心に活動しています。

また、開設当初より専任のボランティアコーディネーターを1名配置し私たちも全面的なバックアップのためボランティアの皆さんとの協力体制を構築しています。

事業所の名称	摘 要
入所（短期入所含む）	定員80名
通所リハビリテーション	定員40名
予防ひろば（総合支援事業）	定員10名
在宅介護支援センター	
居宅介護支援事業所	
ケアポート庄川デイサービス	定員50名
デイサービスゆずの木（地域密着型）	定員15名

・入所・短期入所

定員80名 在宅復帰を目指す中間施設。全室個室、洗面所、トイレが完備され、集団生活の中でも個人のプライバシーが保たれています。必要に応じたりハビリの提供により、心身機能の維持や在宅復帰を目指しています。空き部屋を利用してショートステイ（7～8床）を実施。他職種連携により、安心したケアを提供しています。自立を支え、寝たきりをつくらないケア、認知症ケア、看取りケアを行っています。大きな行事として、納涼祭、ふれあい会があり毎年盛大に開催しています。

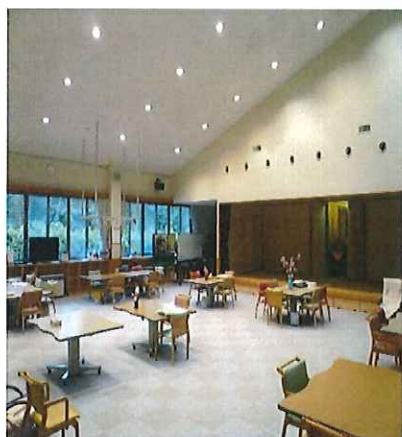
・通所リハビリテーション

定員40名 在宅におけるリハビリを必要とされる方の心身機能の維持、向上をサポートしています。理学療法士、作業療法士による専門的なりハビリを実施し、毎月集団活動で風船バレーやおやつ作りを実施しています。また、趣味活動や作業の一環では、手芸や作品制作を行っています。



・デイサービスセンター

定員50名 通う楽しみをもって頂き、可能な限り自立した日常生活を営むことが出来るよう支援しています。趣向を凝らしたレクリエーションや、地元の食材を生かしたおやつ作りを行い、好評を頂いています。





・デイサービスゆずの木

定員15名 地域密着型デイサービス
 家族風呂や対面式キッチンを設置し、家庭的な雰囲気を大切にしています。四季を通じての野外活動やドライブを積極的に実施し大変好評です。



・予防ひろば

定員10名 介護予防、認知症予防を目的とし、出来ることを見つけ、健康維持、向上を目指しています。ボランティアの皆さんと共に活動。お互いに支えあう仲間づくりの場として百歳体操、脳トレ、レクリエーションを皆さんで楽しんでいます。

・在宅介護支援センター

在宅介護に関する総合的な相談に対応しています。各種保険、福祉サービスが受けられるように、関係機関との連絡調整や要介護高齢者、家族の方が笑顔で生活して頂けるようサポートしています。

80歳在宅者の心身の健康管理実態把握をし、介護予防や自立した生活をご支援いたします。



社会福祉法人 よしだ福社会 ケアポートよしだ

1. 大きな家族 小さな地域社会～地域はひとつの家族～

●ケアポートよしだの誕生

島根県飯石郡の吉田村（現雲南市吉田町）は、その東西に、出雲市と広島市とを結ぶ国道が走っています。「ケアポートよしだ」は、村の東の玄関口である深野地域にある本格的な高齢者の総合福祉施設として、平成6（1994）年5月に誕生しました。周囲を山々に囲まれ、建設時には隣接する深野川の水辺も整備され、自然とふれあえるような立地となっています。

当時、都市部よりも早く高齢化社会を迎える過疎地域では、ニーズに対応した福祉事業の展開は早急に着手すべき課題でした。村では“健康と長寿のむらづくり”の指標として平成5年に『吉田村老人保健福祉計画』を策定し、その熱意にもとづき、(財)日本船舶振興会（現(財)日本財団）の高齢者福祉モデル事業第2号として建設されることになりました。

平成4（1992）年3月、第1回建設運営委員会が開催され、その委員会は、保健・医療・福祉・建築・身体教育の専門家で構成され、以下のことが提言されました。「ケアポートよしだ」への抱負として、地域の実情や到達点を踏まえ、高齢者のニーズに総合的多面的に応える施設を建設し、積極的な気持ちをもとに、基本的に自分の身の回りは自分で出来るような条件を整備する。そして年をとっても一生懸命生きる姿を、地域社会のかけがえのないものとすると言われました。



過疎地における安心で豊かな老後を築く拠点施設の役割を担う『ケアポートよしだ』
子どもから高齢者まで。体力づくりから介護まで。
加齢に伴い変容する高齢者の多様なニーズに対応。

●運営形態と事業の移り変わり

ケアポートよしだの運営母体は、建設時の準備室は発展した形で平成6（1994）年3月に発足した、社会福祉法人吉田村福社会（雲南市発足により、「よしだ福社会」と改称）である。当初の施設運営には、施設長、事務長、デイサービススタッフ8名、介護支援センタースタッフ2名、生活福祉センタースタッフ1名、ホームヘルパー4名、運動指導員1名、夜間職員4名が常勤として携わり、非常勤として、人材バンク登録者のうち25名が交代で働いていました。

また、居住、介護、健康交流、地域づくり、地域交流、という五つのゾーンから構成されている点が特徴的であり、各ゾーンの機能を明確化すると同時に、相互の結びつきを持つことで福祉事業の充実を図ろうとする、本格的な総合福祉施設となっています。

居住ゾーンはホームヘルプ事業を、介護ゾーンは介護支援コーナー、ショートステイ及びデイサービスを、健康交流ゾーンはヘルスアップ事業を、地域づくりゾーンはシルバー大学を、地域交流ゾーンはボランティアセンターおよび人材バンクをそれぞれ展開しています。

2. 時代の流れと共に

●介護保険制度の開始と町村合併

平成12（2000）年の介護保険制度の開始、平成16（2004）年11月には周辺5つの町と合併し、雲南市吉田町となりました。

また介護保険制度導入に伴い、それまで基本的に本人の希望や年齢（80歳以上）によりデイサービスの利用が可能であったものが介護の認定が前提となり、介護の比重が高くなりました。そのため、サービスや援助内容も大きく変化してきました。そこで、吉田村ではシルバー大学に加え機能訓練事業やミニデイサービスを実施することにより、自立の高齢者に、介護予防のための通所系サービスを充実させました。



このような地域の実情を踏まえた取り組みにより、吉田村の75歳の人は、自立期間（介護1までの期間）の平均余命に対する割合が県内最高と島根県保健環境科学研究所（島根県における健康寿命の改善に関する研究,2003.3）は報告しています。

3. 過疎高齢化とともに

雲南市合併当初(2004年)の人口は46,098人(13,467世帯)、吉田村人口は、2,345人(682世帯)。2017年8月現在の雲南市人口39,448人(13,844世帯)、高齢化率は37.26%、吉田町の人口は1,761人(648世帯)、高齢化率44.97%となっており、市内でも最も高齢化の進展した山間過疎地域であり、町内の集落によっては高齢化率が5割を超える、いわゆる「限界集落」も存在しています。

中山間地域特有の地理(起伏など)・気象(降雪など)条件、公共交通の非利便性、公共施設等へのアクセスの問題等に併せて、住民間の交流・情報交換の不足によるコミュニティの弱体化といった、過疎の問題に歯止めをかけるきっかけとして、福祉事業の核となる施設をめざすケアポートよしだでは、自治体規模に合った可能な限りの事業拡大や改変を行ってきました。

介護保険サービスでは、“住み慣れた地域で在宅生活を続けたい”といったニーズに対応した、小規模多機能型居宅介護事業所とちのみを平成20年度に、ふかのの里を平成23年度に開設しました。さらには、高齢者簡易宿泊所瑞光、住宅型有料老人ホームさくらんぼの開設、従来の「小規模多機能型居宅介護」の通所・宿泊・訪問介護に「看護」の機能を加え、医療ニーズの高い方でも、慣れ親しんだ地域と家で、身近な人に囲まれて暮らし続けることをサポートできるよう看護小規模多機能型とちのみへ変更と多様化するニーズに対応しながら、その役割を果たしてきたと言えます。

温水プールを核とした健康交流ゾーン(リフレッシュセンター)では、当初より子どもから高齢者までの多世代交流や積極的な健康づくりの場を提供し、一般利用者へプールの積極的利用を勧めています。さらには施設中央には交差点をイメージして設置された開放的なホールがあり、利用者どうしでの卓球や地元神楽の上演などにも利用され地域交流の場となっています。吉田の歴史に触れることができる図書コーナーや四部屋の和室も完備しており、近隣の小学生のそろばん教室などが毎週開催されています。また、地域づくりゾーンのシルバー大学は、高齢者の生きがいの拡大、生きがいの創造を目的として、そのプログラムの中心が健康づくりのための運動実践・学習でした。市合併後も名称変更やプログラムの改変、見直しを行ったものの、市の一般介護予防事業には高齢者の水中運動プログラムが継続して盛り込まれ、現在も市内唯一の受託事業所としてケアポートよしだで実施されています。

ケアポートよしだ 介護保険事業所一覧	
ケアポートよしだ地域密着型通所介護	定員 18名
ケアポートよしだ訪問介護	在宅介護
居宅介護支援事業所ケアプランよしだ	居宅支援
高齢者生活福祉センター	定員 11名
定期賃貸型有料老人ホームさくらんぼ	個室 3部屋
小規模多機能型居宅介護事業所ふかのの里	定員 25名 (泊り7床)
看護小規模多機能型居宅介護事業所とちのみ	定員 29名 (泊り9床)



リフレッシュセンターの温泉プールと介護予防事業の様子



開放的なホールと和室でのそろばん教室やボランティア活動

平成 29 年 9 月現在、よしだ福祉会は正規職員 8 名、嘱託職員 11 名、パート 59 名で、健康づくり・介護予防事業、介護に関する事業、居住事業の 3 つの事業を柱に運営しています。



在宅での暮らしを支える地域密着型通所介護と訪問介護



高齢者生活福祉センターと食堂での団らん（上）

2つの小規模多機能型居宅介護事業所での様子（下）



過疎地における安心して豊かな老後を築く拠点施設の役割を担う『ケアポートよしだ』は子どもから高齢者まで。体力づくりから介護まで。加齢に伴い変容する高齢者の多様なニーズに対応することで、慣れ親しんだ地域や家で身近な人やなじみの人に囲まれ、いつまでも暮らし続けることが出来るように支援しています。

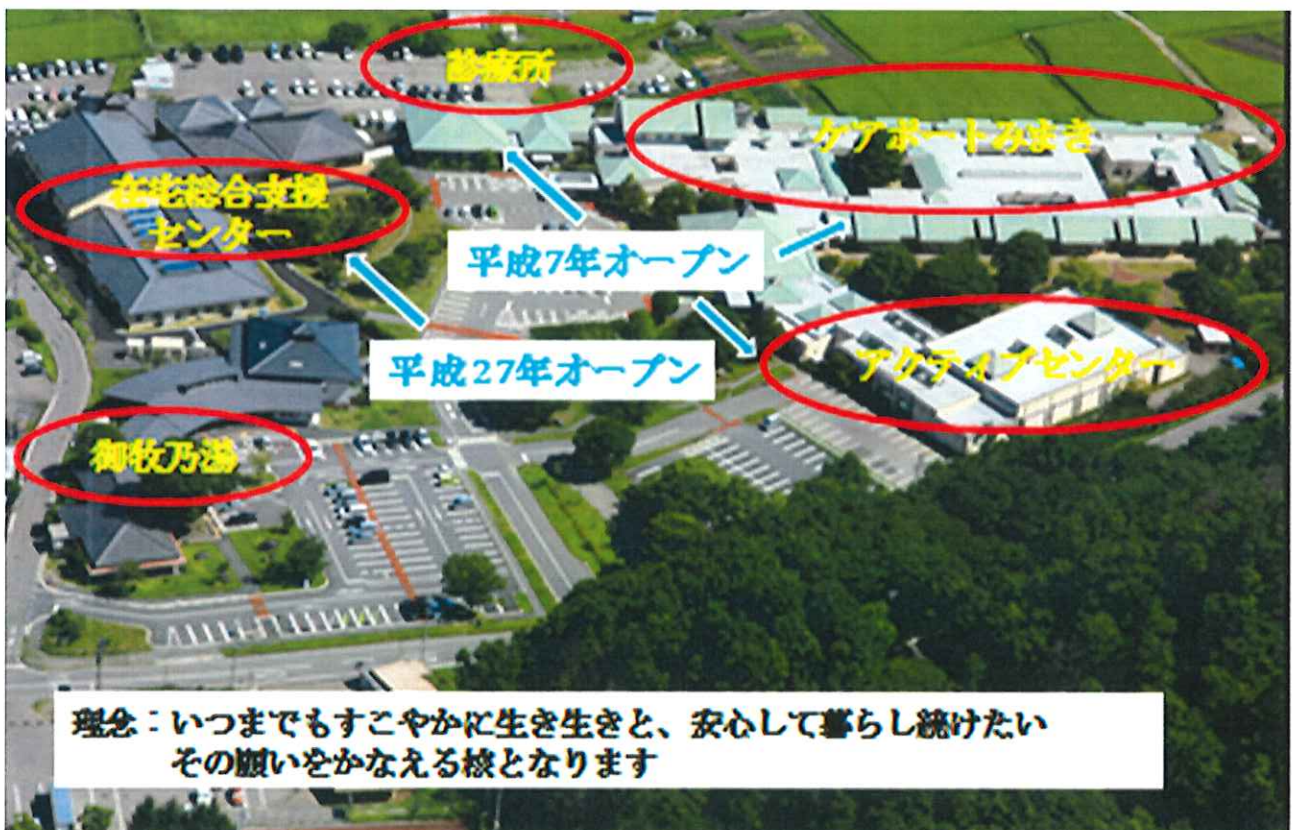
社会福祉法人 みまき福祉会 ケアポートみまき

ケアポートみまきは、高齢化社会を迎え将来を展望するなかで、自立自助の精神で、すべての人が安心して住み慣れた地域で暮らせるために、地域住民の皆様の熱意が結実したものです。

「保健・医療・福祉」の総合施設として財団法人日本船舶振興会（現 日本財団）地域福祉創造プロジェクトのケアポート事業モデル第3号として建設されました。平成7年4月に開所し全室個室の特養はケアポートみまきが初めてでした。

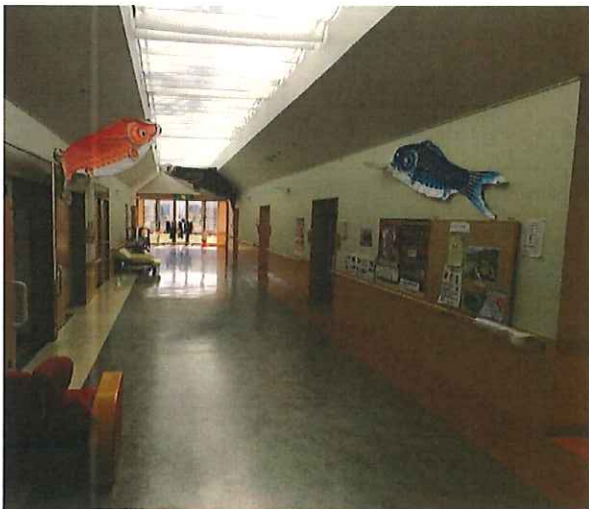
また、診療所を中心とした地域医療の充実と、温泉アクティブセンターの水中運動による健康づくり事業は地域のコミュニティの“核”の役割を果たしてきました。

平成27年2月に在宅支援センターみまきの家が開所しました。その他、公益財団法人身体教育医学研究所があり、連携しながら地域の健康指導や介護予防の実践をしています。



事業所の名称	摘要
特別養護老人ホームケアポートみまき	定員66名
みまきっずRoom（施設内託児）	定員6名
デイサービスセンターきたみまき	定員40名
デイサービスセンターあぜだ	定員9名
予防センターあぜだ（総合支援事業）	定員5名
やえはらデイサービス・みはらしの郷	定員18名
予防センターみまき（総合支援事業）	定員20名
トレーニングセンターみまき（総合支援事業）	定員30名

事業所の名称	摘要
ショートステイケアポートみまき	定員20名
ほのぼのホーム（グループホーム）	定員9名
訪問看護ステーションみまき	訪問看護
ホームヘルパーステーションみまき	訪問介護
ヘルパーステーションみまき	障がい
ケアポートみまきマネージメントセンター	居宅支援
相談支援センターみまき（指定特定相談支援事業）	相談支援
温泉アクティブセンター（トレーニングセンター含む）	会員1,300名



・特別養護老人ホーム

定員 66 名 全室個室でプライバシーが保て、思い出の詰まった家具、小物の持ち込みを自由に出来ます。内部は5ユニットに分かれており、個人の尊厳を大切に個別ケアの実践をしています。



・みまきっず Room

定員 6 名 平成 29 年 4 月に職員の子育て支援として開所された施設内の託児所です。現在、定期利用が5名あり、明るく楽しく子どもたちのはしゃぎ声、泣き声、元気な声が聞こえてくる保育施設です。

・平成 27 年 2 月に、地域包括ケアに向け、在宅部門を集約した『在宅総合支援センターみまきの家』が開所しました。この施設は、林野庁の補助金を活用して、県産材を使った木造の建物になります。



・デイサービスセンターきたみまき
定員 40 名
高齢であっても、障害があっても地域でみんなと“いきいき”と過ごせるよう、利用される皆さんの声に耳を傾ける事で、何度でも利用したくなるような“集いの空間”を目指します。



・デイサービスあぜだ
定員 9 名
季節感あふれる全品手作りの食事サービスの提供や、お花見や買い物など、変化に富んだレクリエーションを取り入れております。“ぬくもり・ふれあい”を大切にした介護サービスを提供いたします。



- やえはらデイサービス みはらしの郷
定員18名
眺めの良い景色と、田園風景の中で、ゆっくりと過ごして頂ける「空間」を作ります。浅間連山を見ながらゆっくりくつろげる足湯(屋外)もあります。また、足湯は一般の方にも開放しております。



- ショートステイケアポートみまき
定員20名
ご利用の日から自宅に戻られる日まで、ご利用される方のご家庭での生活様式を変えることなく、落ち着いた快適な生活を送れるように、心身生活と生活ニーズに応じたサービスの提供を目指します。



- ほのぼのホーム
定員9名
家庭という癒しの空間の中で、ご利用者が精神的に落ち着いて明るく生き生きと過ごせるよう支援し、生きていることの喜びを皆で共有していくことを目的としています。

- その他、在宅部門を集約した在宅総合支援センターみまきの家に『訪問看護』『ホームヘルパー』『マネージメントセンター』、障がい者の『相談支援センター』があり、多職種連携して事業を展開しています。



• トレーニングセンター

総合支援事業として、定員 20 名の『ミニデイ』と、定員 30 名の『トレーニングセンターみまき』が平成 29 年 4 月より始まりました。

介護予防として一般高齢者の筋トレ教室や、デイサービス利用者がトレーニングセンターで機能訓練を行っています。



• 温泉アクティブセンター

社会福祉法人としては珍しい、『プール』が併設されています。25メートルプールや流水プール、ジャグジープール、サウナなどが整備され、地域の皆様のコミュニティの場になっています。1 日約 400 名程度の会員さんが利用され、会員数は 1, 300 名程度の会員数になっています。ベビースイミングやジュニアスイミングといった水泳教室をはじめ、市内の保育園児への開放や、障がい児・者プール指導や、水泳大会などを開催しています。平成 30 年度からは厚生労働大臣認定の健康増進施設、指定運動療法施設として運営しています。

若手職員研修会報告

<若手職員研修実績>

若手職員	期日・会場	内容等	出席者
第1回	平成29年7月21日(金) ～7月23日(日) 島根：ケアポートよしだ	ケアポートよしだ事業所視察 経験、体験、課題の共有 地域生活支援分科会活動参加	庄川2名、よしだ4名、 みまき3名
第2回	平成29年9月8日(金) ～9月10日(日) 富山：ケアポート庄川	ケアポート庄川事業所視察 経験、体験、課題の共有 ボランティア活動参加	庄川4名、よしだ2名、 みまき3名
第3回	平成29年12月3日(日) ～12月5日(火) 長野：ケアポートみまき	ケアポートみまき事業所視察 経験、体験、課題の共有 ケアポートみまき事業所報告会参加	庄川3名、よしだ2名、 みまき3名

○若手職員研修の目的

入職からの経験、体験を参加者で共有して悩み等を意見交換し、これからの活動（自身の取り組み）に活かしていくことを目標としました。また、各ケアポートの現状や取り組みを知る機会としました。

○対象者

入社5年以内を目安に、各法人3名の職員が研修に参加しました。

【第1回 7/21（よしだ）、2回 9/8（庄川）、3回 12/3（みまき）若手研修会共通課題】

1日目（施設見学と問題、悩みの共有）

<若手職員感想>

各ケアポートの若手職員が自己紹介と各事業所の報告をしました。若手職員にとっては自施設の紹介をする経験は乏しく、自施設の基本理念や成り立ちを深く知る良い機会になりました。また、発表をするにあたり、いろいろと自施設を調べたりする中で、法人の取り組みや、施設の特徴や良い面、悪い面など新たな発見がありました。

日頃の悩みや自己課題などの抽出（KJ法を活用）ではケアの現状につて、「日頃忙しくご利用者一人ひとりの訴えをゆっくり聞くことができない。」「なかなか定時に業務を終わらせることが出来ない。」理想としているケアと現実のケアの違いに葛藤する職員や忙しさの中で作業的になってしまっている、本来の個人の尊厳を大切にしたい個別ケアが疎かになっているなど各施設共有した課題が改めて浮き彫りになりました。

今回、スリーポートの若手研修に参加し県外（富山県、島根県、長野県）の施設でも同じ様な課題があり自分だけではないと共感でき、悩みを打ち明け共有する過程で問題が解決したり力をもらえたりと、仕事に対してモチベーションアップに繋げることができました。



KJ法を活用し問題や情報を交換する若手職員

【7月22日開催 会場：ケアポートよしだ】

2日目（一般公開講座参加等）

“地域とともに考える”

「元気で、ここで暮らし続けるために。健康づくりから、人生最後まで、自分をプロデュースしよう」に参加しました。講座の内容、感想は以下のとおりです。

①行政説明

「地域包括ケアシステムが必要とされているわけ」

雲南市役所保健福祉部健康づくり政策課 グループリーダー 梅 博章 氏

<若手職員の感想>

地域包括システムとは、本人、家族、地域や行政、さらに医療や介護などの専門機関が一体となり、一つの充実した生活を支え合う地域の仕組みを創りあげることであることが分かりました。地域との繋がりの中で「自分らしい生活を自分らしく最後まで続けること」が出来る地域づくりの必要性を感じました。

また、超高齢化社会が迫る中、前期高齢者の時期から自分から積極的に健康づくり介護予防への取り組むことの大切さも学ぶことができました。

②パネルディスカッション

「元気でここで暮らし続けるために。健康づくりから、人生最後まで、自分をプロデュースしよう。」

• 座長

日本体育大学 日体大総合研究所 武藤 芳照 氏

• パネリスト

【地域医療の立場から】田井診療所 西村医院 院長 西村 正幸 氏

医療法人 渡部診療所 所長 渡部 泰次 氏

【民生児童委員の立場から】吉田地区民生児童委員協議会 会長 藤原 文雄 氏

【健康づくりと介護者の立場から】地域運動指導員 堀江 三重子 氏

【若者の立場から】宇山民谷後継者会 会長 堀江 智浩 氏



一般公開講座の様子

<若手職員感想>

パネルディスカッションでは「元気」「ここで」「ともに」というキーワードでパネラーの意見を伺うことが出来ました。地域の活性化の重要性や、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために各ケアポートがコミュニティや支援の場として広範に関わり、地域の“核”として役割を担っていく必要性を感じました。

③講演

「病院の医師から伝えたいこと」

雲南市立病院 地域ケア科 部長 太田 龍一 氏

<若手職員感想>

高齢者のほとんどが在宅での最後を望んでいるが、現実とはちがい病院で亡くなる方が多いことが分かりました。在宅での最後を迎えるには、在宅医療は必要であり、訪問介護、訪問看護など多職種が協働し合う事が大切だと感じました。今後、ますます医療と介護の連携が重要になって行くと思いました。

④ゆめ・ひと・つながり手帳の提案、意見交換

「健康づくりから人生最後まで、自分をプロデュースしよう」

よしだ福社会 統括施設長 藤原 伸二 氏 施設長 錦織 美由紀 氏

<若手職員感想>

自身が介護を必要となってからどうしたいか考えるのではなく、今まで歩んできた人生や残りの人生をどう送りたいか、あらかじめ意思を周囲に伝えられるツールとして手帳は大変有効なものだと感じました。手帳をきっかけに本人、家族、地域との繋がりをより深めることになればよいと思いました。

【9月9日開催 会場：ケアポート庄川】

2日目（講義、見学）

①ケアポート庄川と地域ボランティアについて

<若手職員の感想>

地域性もあると思いますが、長年ケアポート庄川ではボランティアの力をかりて取り組みができていることは素晴らしいことだと思います。実際にボランティアに参加している方に直接話を聞くことができ、ボランティアに参加するには本人の意識はもちろんですが、家族の理解も必要だと分かりました。また、新たにボランティアに参加する人が少ない、ボランティアの高齢化などの問題があり、今後、ボランティアの参加の仕方やボランティアの内容などの検討をしていく必要があると感じました。

ボランティアにまじり若手職員も喫茶店や売店のボランティア体験をしましたが、ボランティアとご利用者様の距離が近く、ゆったり和やかな雰囲気でした。施設職員では手が回らないようなところをボランティアの力をかり協力しながら、ご利用者様の日常生活をよりよいものにしていけたらと感じました。



座学と喫茶店ボランティア参加の様子

②予防ひろばについて

＜若手職員感想＞

予防ひろばに参加し女性のご利用者だけでなく男性のご利用者の参加もあり、少し驚きました。いろいろ介護予防のメニューがあり自分の好きな項目を自己選択、自己決定できるようになっているところに感心しました。

また、多職種と連携し健康寿命を延ばし、いかに要介護状態に陥らないようにできるか大切だと感じました。



予防ひろばの体操にスリーポートの若手職員も参加

③老健施設について

＜若手職員感想＞

スリーポートと言っても、老健、通所系、特養とちがっています。若手職員の中には自分の施設はわかっているけど、他は知らないという人もいます。今回、老人保健施設の役割や現状を知ることができました。施設入所の方も高齢化しており、なかなか在宅復帰が難しい状態で、近年では看取りが増えていということです。ターミナルケアの重要性を改めて実感しました。

しかしながら、スリーポート共通した、ご利用者、ご家族にとって残された人生のをどのように送り、どのように迎えることが幸せなのか、また、どのようにケアをしていけばよいか考えるきっかけになりました。

【12月4日開催 会場：ケアポートみまき】
2日目（事業所報告会への参加）



第14回ケアポートみまき事業所報告会の様子

<若手職員の感想>

ケアポートみまきでは年1回、今、法人が取り組んでいることや取り組んできたことを地域の皆さんや近隣事業所、福祉関係者を招いて情報発信をしています。若手職員は現場対応することも多く、初めて参加する職員もいました。100名を超える参加があり、スリーポート共通で地域に情報を発信していく重要性を感じました。また、法人内でどのような取り組みをしているのか職員が共有することも重要だと感じました。地域の皆様の力をかり、支え支えられて今のスリーポートがあると感じました。

【第1回 7/23（よしだ）、2回 9/10（庄川）、3回 12/5（みまき）若手研修会共通課題】
3日目（まとめ、目標）

若手職員の感想

3日間の若手職員研修会に参加して、他のケアポートを知ることができました。また、同じくらいの勤続年数の職員と情報交換でき自己の振り返りや課題の共有、解決に向けた話し合いができたことはとても有意義で良い経験になりました。

日々、ご利用者、ご家族を支援させて頂く介護職員として、日々努力を重ねスキルアップし、ご利用者、ご家族、職員から信頼される職員になりたいと思います。

また、地域との繋がりを大事にし必要とされる法人をめざし、今の仕事に誇りをもって取り組んでいきたいと感じました。

<若手職員研修メンバー>

区 分	ケアポート庄川	ケアポートよしだ	ケアポートみまき
第1回目	竹田 和晃 池田 翔	深居 明菜 荒木有里子 宮本留美子 伊藤 久美	内堀 勇希 山田ちひろ 清水 愛美
第2回目	大谷ありさ 石澤 祐二 片山 孝幸	宮本瑠美子 伊藤 久美	大塚 俊美 滝沢 健太 宮澤 優里
第3回目	池田 尚輝 小幡 未来 中井 美咲	深居 明菜 石原 紀子	金井 哲也 高橋 舞 荻原 宏美